

■小教区評議会 役員研修会の目的

1. 役員は、その任期中に、教会運営のために奉仕するのですが、第一の役割は、ブロック司牧チームとともに、教会の活動を方向づける、いわば「頭」となることです。そのためには、「頭」の一員としての役員に、必要な「心構え」と「方法」を学んでいただくことが、役員研修会の目的です。
2. 京都教区は、役員研修会を、3 年を 1 サイクルのテーマで企画しています。
 - ①「教会と福音宣教の理解」
 - ②「共同体づくり」
 - ③「社会への福音宣教」

まず、①「教会と福音宣教の理解」では、カトリック教会が「教会であること」の意味と、教会の使命である「福音宣教」の理解を深めます。

次に②共同体づくりでは、小教区共同体の信徒全員が参加して、福音宣教で行うためにふさわしい共同体づくりについて考えます。

そして、③社会への福音宣教では、時代の「時のしるし」を見て、社会の中で具体的にどのような福音宣教を行うかを考えます。

3. この①②③の流れの研修で大切なことは、時代と社会の動きをよく見て、その時必要とされている教会のあり方を模索していく、ということです。
4. このように毎年行われる役員研修会では、役員信徒が数年で交代していくなかでも、上記の 3 つのテーマで研修を繰り返し受けていくことで、信徒として成長していくことができます。
5. 実際の教会活動では、この①②③を同時に行っています。したがって、どの年の研修会でも 3 つのテーマの関連性と全体像を念頭において、参加してください。

■小教区活動の 3 つの領域

教会活動の領域には、対象とする人に 3 つのグループがあります。司牧宣教活動の計画を立てるとき、この 3 つのグループに対して偏りがないように配慮しなければなりません。

- 1) 普段、通常の教会活動に参加する（できる）信徒
- 2) 教会から離れた信徒や、しばらく教会活動に参加していない信徒
- 3) 社会の中で、キリスト教信仰を求める人